

足ハイキング  
クラブ

# お父さんの山行き紀行

ishiduka

## 加佐ノ岬・寺尾観音山を歩く

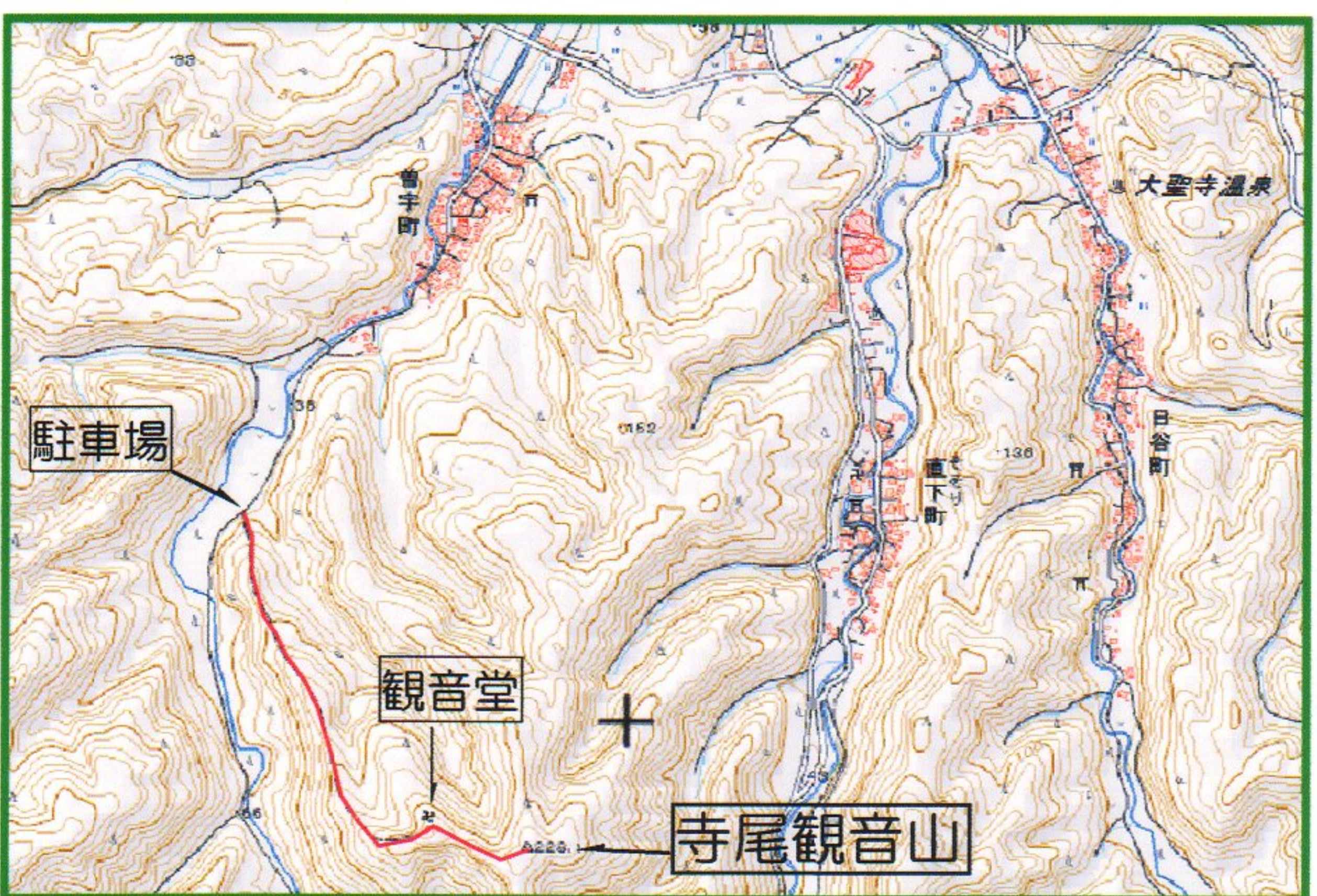
加賀市内を巡るハイキング（平成28年12月18日）

今年五月に带状疱疹になってから体調が十分でなかった  
ので、控えていた山歩きを再開。足ハイキングクラブでの山  
歩きは今年最初で最後となる。

場所は、加賀市の加佐ノ岬と寺尾観音山で、非常に歩き易  
いコース。容易な山歩きなので、十六名と大勢の参加となり、  
荒川さんのリードでスタートする。もちろん帰りは温泉入浴  
が待っている。

私にとって今年最初  
で最後の山歩き参加。  
久しぶりの参加にウキ  
ウキ気分だったが、集  
合場所の雪研付近でう  
ろろろしてしまい、集  
合時間七時ジャストの  
到着となってしまった。  
片川さんの車に、宮本  
会長、鈴木さん、伊部  
さん、清家さんと共に

便乗させていただき、他の方々は、小泉  
さん、畑中さんの車に分乗しての出発と  
なる。途中、金津インター付近のコンビ  
ニで立田さん、伴藤さんが合流して全員  
集合。一路目指すは加佐ノ岬。  
加賀インター付近で順路を間違ったが、  
修正して加佐ノ岬に向かう。道中、懐か  
しい片野の鴨池の横を通過。ここで、鴨  
池付近で行っている伝統的な鴨猟（逆網  
猟）についてお話をする。八時三〇分頃  
に加佐ノ岬の駐車場に到着。ここから国



有林に入るので、元国有林マンとして、  
加賀海岸の国有林概要を少し説明をさせ  
ていただき、国有林の中に入る。  
加賀海岸の国有林へは、金沢営林署  
（現石川森林管理署）から大阪へ転勤し  
て以来十八年ぶりになる。「加佐ノ岬付  
近のクロマツの林は、二五メートルを超す大木  
があった自慢の林だったので、今は見る  
影もないな！」とマッククイムシ被害の拡



2016/12/18 08:43

大により松林の体をなしていない状況に  
情けない思いが心をよぎる。（みなさん  
には、マッククイムシ被害のメカニズムに  
ついてお話をする）

全員が加佐ノ岬燈台を過ぎ、岬の先端  
へと進む。途中、ヘキサチューブ（京大  
赤井教授発案）を利用したクロマツの植  
栽地を見つけ、全滅の状況を確認し、  
「名勝地なのに、なぜ早く片付けないの  
かな？」と思い、石川署の知り合いに電  
話をしてみよう。（職業病かな）

ここで、日本海をバックに全員で記念  
撮影。まだ、空はどん曇りだけど、雨は

降りず、ますますのハイキング日和とな  
る。



加佐ノ岬から浜山岬、黒崎海岸へと向  
かう途中には、  
赤い実のなるビ  
ナンカズラの実  
ルトリイバラな  
どのつる植物、  
ゴンゼツの赤黒  
い実、マサキや  
トベラの黄色い  
実がはじけてい

黒崎海岸から掘割を抜け、黒崎町の町  
並みの中を通り抜け、加佐ノ岬に引き返  
す。加佐ノ岬には、十一時過ぎに到着。  
早速、風食とする。

伴藤さんがいつものように「今日ほ、  
豚汁です。」とのこと。登山用の携帯力  
スバーナーを三本準備し、付近にあった  
トタンの切れ端で囲い、風よけを作る。  
「この人たちは、どのような状況に置か  
れても、付近にあるものを工夫して生き  
ていける」と頼もしく思う。  
調理の間に加藤さんがオカリナでエー



調理をする伴藤さん



デルフェイス、ふるさとなど数曲を演奏。心穏やかにオカリナの響きを楽しむ。



オカリナ演奏を終え、昼食をとる加藤さん

参加者からは「加藤さんオカリナ上手になったね!」との声も・・・。  
手弁当を広げ、豚汁もおかわりし、「体が温もったな!うまかったな!寒い日には最高のご馳走だ。いつも有難う。」と感謝する。



あずまや付近で昼食をとる面々

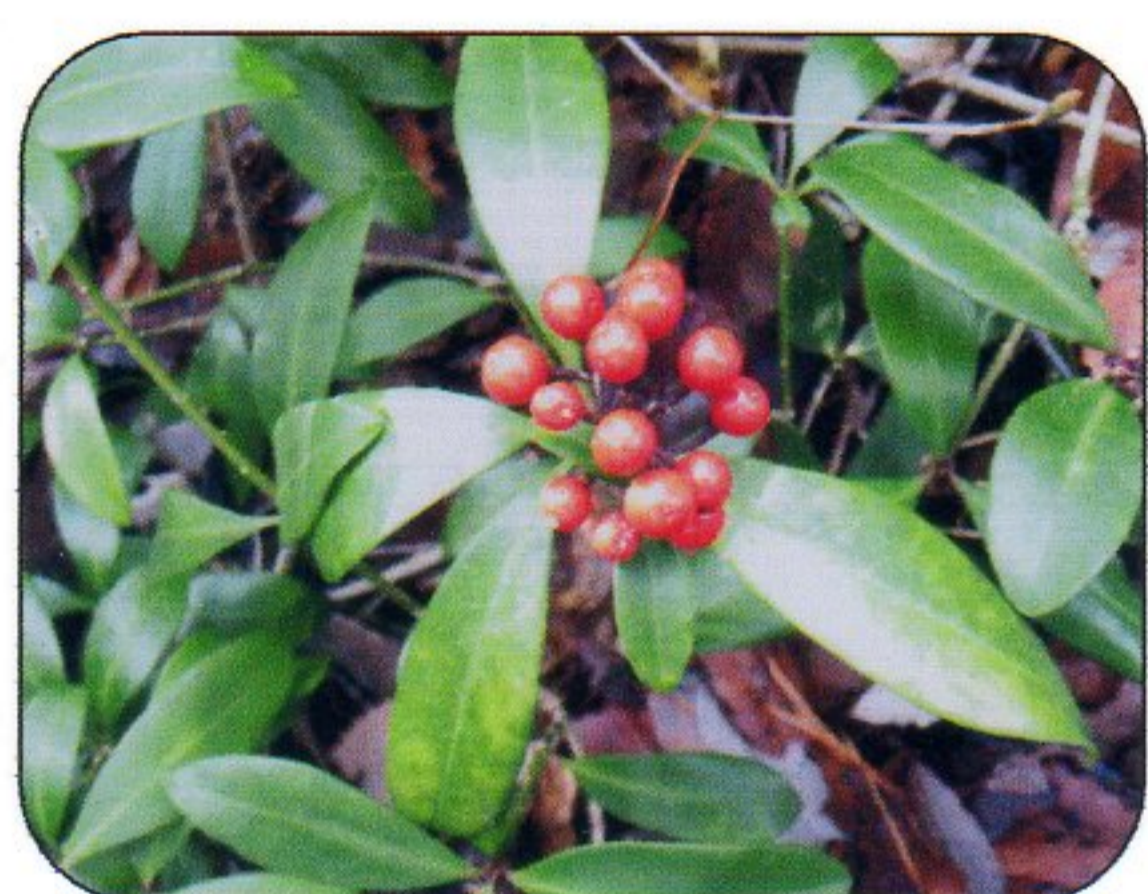
そのうちに、空模様は晴れ間が広がり、絶好のコンディションとなる。十一時半頃に加佐ノ岬を後にする。大聖

寺の街中を通過し、国道8号を横切り、寺尾観音山を目指す。寺尾観音山の駐車場に十二時に到着。十二時一〇分から登山開始。入口付近の杉林を過ぎ、落ち葉が吹きだまった参道を進む。



薄っすらと残雪が残る参道

この付近のスギの木は、熊の皮剥ぎ被害は見当たらない。しかし、広葉樹(コナラ、ホオノキ、ヤマモミジ、ソヨゴなど)に混じってアカマツが自生しているが、ほとんどのマツが枯れている。



ミヤマシキミの実

十二時三〇分に観音堂を通り、緩やかな尾根を進み、四〇分に標高二二八の山頂に立つ。途中、ミヤマシキミやソヨゴの赤い実を見つける。



標高228m地点の三角点

山頂には国土地理院の三角点がある。伴藤さんのリュックの下になった三角点を撮影。(これもおもしろいかな?)  
山頂は林の中で、見晴らしも悪いので、すぐ下山する。観音堂まで戻り、ここで、付近にアカマツがあったので、「アカマツは新芽が赤く、葉は触ってもいたくないです。クロマツは新芽は白っぽく、葉は固く尖っていて痛いです。」とお話すると「なるほど、触っても痛くないわ!」との声。特徴を実感してもらえたよかったです。



観音堂前広場でコーヒータイムを楽しむ



モミノキの大木

する。ここからは、遠く日本海が薄っすらと望め、しばし休憩して、十三時五分に下山を再開する。十三時二五分

には全員下山完了。  
「次は温泉だ!何処へ行くのかな?」  
と思っていると、まず、近くにある大聖寺温泉へ。入浴困難だったので、次は加賀三谷温泉へ。ここは、十五時三〇分からしか入浴できない。そこで、あわら市に戻り、北潟湖畔荘で温泉に入ることになる。



北潟湖畔荘

加賀インター脇を通って、吉崎方面に向かい、伊部さんの道案内で目的地には十四時二〇分に到着。早速、入浴料400円を払って受付を済ませ、展望浴場で風力発電の風車を眺めながらゆったりと湯につかる。やはり、山歩き後の風呂は気持ちがいい。

十五時三〇分には湖畔荘を出て、車の中では宮本会長中心に楽しい会話が続く。雪研に十六時三〇分に到着。無事解散となる。運転手のみなさん有難うございました。



北潟湖越しに風力発電の風車が見える



あしハイキング  
クラブ

# お父さんの山行き紀行

ishiduka

## 加佐ノ岬・寺尾観音山を歩く

加賀市内を巡るハイキング（平成28年12月18日）



今年は五月に帯状疱疹になってから体調が十分でなかった  
ので、控えていた山歩きを再開。あしハイキングクラブでの  
山歩きは今年最初で最後となる。  
場所は、加賀市の加佐ノ岬と寺尾観音山で、非常に歩き易  
いコース。容易な山歩きなので、十六名と大勢の参加となり、  
荒川さんのリードでスタートする。もちろん帰りは温泉入浴  
が待っている。

私にとって今年最初  
で最後の山歩き参加。  
久しぶりの参加にウキ  
ウキ気分だったが、集  
合場所の雪研付近でう  
ろろろしてしまい、集  
合時間七時ジャストの  
到着となってしまうた。  
片川さんの車に、宮本  
会長、鈴木さん、伊部  
さん、清家さんと共に

便乗させていただき、他の方々は、小泉  
さん、畑中さんの車に分乗しての出発と  
なる。途中、金津インター付近のコンビ  
ニで立田さん、伴藤さんが合流して全員  
集合。一路目指すは加佐ノ岬。  
加賀インター付近で順路を間違ったが、  
修正して加佐ノ岬に向かう。道中、懐か  
しい片野の鴨池の横を通過。ここで、鴨  
池付近で行っている伝統的な鴨猟（逆網  
猟）についてお話をする。八時三〇分頃  
に加佐ノ岬の駐車場に到着。ここから国

有林に入るの、元国有林マンとして、  
加賀海岸の国有林概要を少し説明をさせ  
ていただき、国有林の中に入る。  
加賀海岸の国有林へは、金沢営林署  
（現石川森林管理署）から大阪へ転勤し  
て以来十八年ぶりになる。「加佐ノ岬付  
近のクロマツの林は、二五畝を超す大木  
があった自慢の林だったのに、今は見る  
影もない！」とマツクイムシ被害の拡



2016/12/18 08:43

大により松林の体をなしていない状況に  
情けない思いが心をよぎる。（みなさん  
には、マツクイムシ被害のメカニズムに  
ついてお話をする）

全員が加佐ノ岬燈台を過ぎ、岬の先端  
へと進む。途中、ヘキサチューブ（京大  
赤井教授発案）を利用したクロマツの植  
栽地を見つけ、全滅の状況を確認し、  
「名勝地なのに、なぜ早く片付けないの  
かな？」と思い、石川署の知り合いに電  
話をしてみよう。（職業病かな？）

ここで、日本海をバックに全員で記念  
撮影。まだ、空はどん曇りだけど、雨は

降らず、ますますのハイキング日和とな  
る。

加佐ノ岬から浜山岬、黒崎海岸へと向



ビナンカズラの実  
かう途中には、  
赤い実のなるピ  
ナンカツラ、サ  
ルトリイバラな  
どのつる植物、  
ゴンゼツの赤黒  
い実、マサキや  
トベラの黄色い  
実がはじけてい

て目を引く。  
黒崎海岸から掘割を抜け、黒崎町の町  
並みの中を通り抜け、加佐ノ岬に引き返  
す。加佐ノ岬には、十一時過ぎに到着。  
早速、昼食とする。

伴藤さんがいつものように「今日は、  
豚汁です。」とのこと。登山用の携帯力  
スバーナーを三本準備し、付近にあった  
トタンの切れ端で囲い、風よけを作る。  
「この人たちは、どのような状況に置か  
れても、付近にあるものを工夫して生き  
ていける」と頼もしく思う。  
調理の間に加藤さんがオカリナでエー



調理をする伴藤さん